

令和元年度の取組状況等

令和元年度実施計画

これまでの取組状況等 (令和2年3月31日現在)

1. 滑走路地区の掘削・遺骨収容

- | | |
|---|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ○ 未探索の壕1箇所継続調査。 ○ 庁舎地区の反応箇所1,559箇所中、未実施の箇所全ての掘削・遺骨収容。 ○ 滑走路周辺部で確認されている探査済みの壕の構造解析を行い、閉塞地点の先に該当する地上部分でボーリング調査等を実施。 ○ 改良型高性能地中探査レーダにより、地下15m程度まで滑走路地区の壕探査を実施。 ○ 面的なボーリング調査により、地下20m程度まで滑走路地区東側半面の壕の探査を実施。 | <ul style="list-style-type: none"> ○ これまでに現時点で作業可能な範囲での収容を終了。合計4柱(29年度2柱、30年度2柱、元年度0柱)の御遺骨を収容した。
今後、平成30年度のボーリング調査により確認された、閉塞地点から先に地上に向かつての延長部について、安全な入壕方法を検討の上、調査を実施する。(P2・P3) ○ 未実施の箇所627箇所中、624箇所の掘削調査を終了。
数箇所の地点で掘削土より小さな骨の一部が発見されたが、全ての反応箇所において御遺骨の埋葬は確認されなかった。
なお、残り3箇所については、コンクリート建造物の干渉により調査不可。(P4・P5) ○ 3箇所の壕のボーリング調査を実施したが、滑走路方向への延長は確認されなかった。令和2年度も引き続き、ボーリング調査等を実施。(P6) ○ 滑走路地区全域において改良型高性能地中探査レーダによる探査を実施。その結果、新たに未探索の地下壕1箇所を確認した。今後、地下壕の構造解析や入壕方法を検討の上、調査を実施する。(P7～P9) ○ 滑走路地区東側半面において、105箇所の面的なボーリング調査を実施。
上記のレーダで発見された地下壕のほか、新たな壕は確認されなかった。令和2年度も引き続き、面的なボーリング調査を実施。(P10) |
|---|---|

2. 外周道路外側の面的調査・遺骨収容

- | | |
|---|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ○ 平成27年度～30年度調査区域の面的調査により確認された壕等161箇所からの遺骨収容。 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 壕等161箇所のうち、65箇所の調査を実施した結果、9柱の御遺骨を収容した。
継続となった4箇所及び未実施の96箇所については、令和2年度に調査・遺骨収容を実施する。(P11・P12) ○ また、調査予定区域外であるが、遺骨収集団の一部団員の強い要望により掘削調査を行った西海岸近くの砂地から2柱の御遺骨を収容した。(P11・P12) |
|---|--|

3. 滑走路地区周辺以外の地下壕調査

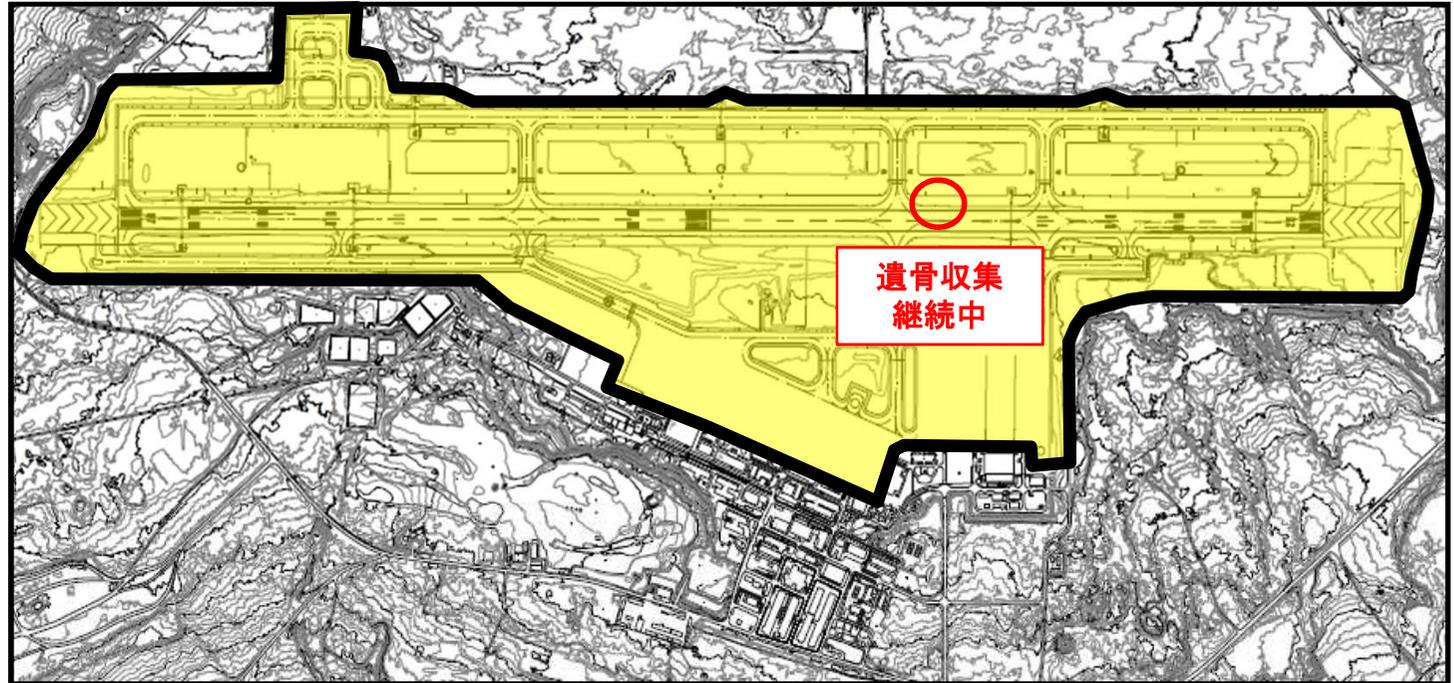
- | | |
|---|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ○ 滑走路地区周辺以外の探査済みの壕の構造解析を実施。 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 2箇所の壕について、構造解析を行った。今後、環境調査の上、閉塞地点の先に該当する地上部分でボーリング調査等を実施する。 |
|---|---|

1-1. 滑走路地区未探索壕の令和元年度調査結果

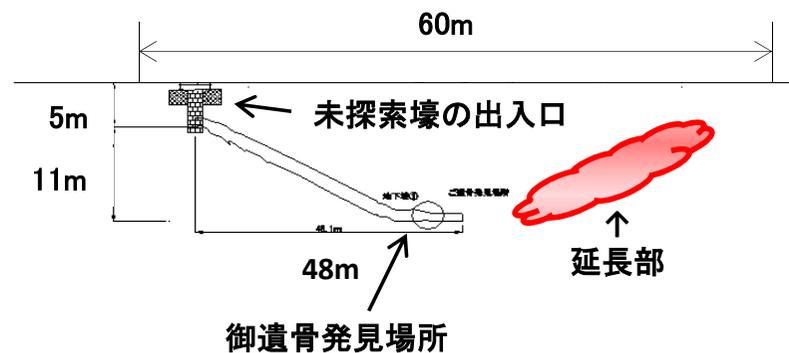
壕内は極めて高温であることから、強力な冷房機器を接続した送風管で壕内に冷気を送り続けるなど、安全対策を講じた上で、御遺骨の収容作業を実施した。

現時点で作業可能な範囲での収容を終了。壕内から、合計4柱(29年度2柱、30年度2柱、元年度0柱)の御遺骨を収容した。

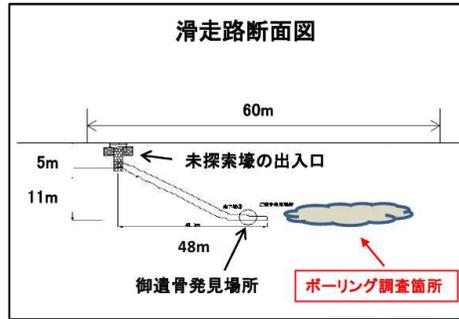
今後、平成30年度のボーリング調査により確認された、閉塞地点から先に地上に向かっての延長部について、安全な入壕方法を検討の上、調査を実施する。



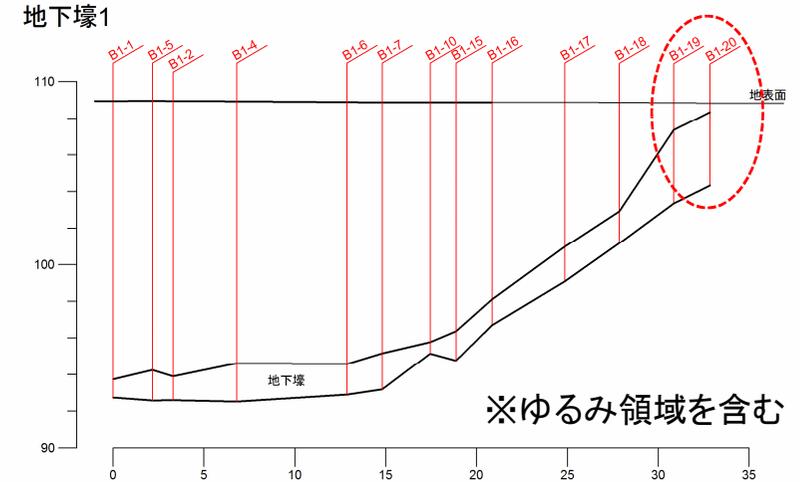
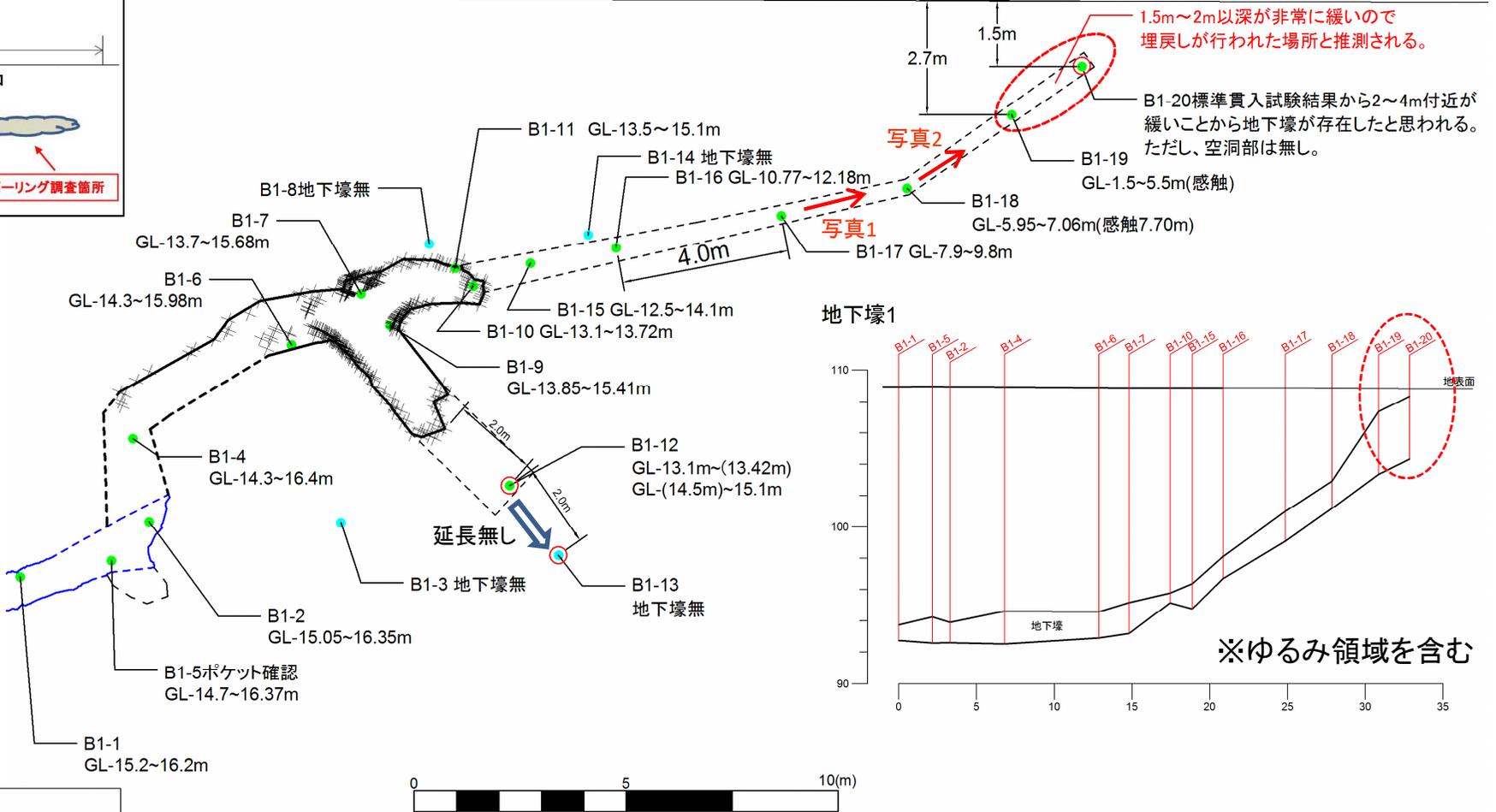
滑走路断面図



1-2. 滑走路地区未探索壕のボーリング調査結果



調査箇所



※ゆるみ領域を含む

凡例

- 地下壕延長確認ボーリング-地下壕有
- 地下壕延長確認ボーリング-地下壕無
- 地下壕到達ボーリング位置
- 地下壕未到ボーリング位置
- 掘削予定ボーリング位置
- +
 壕内測量結果
- 既存資料地下壕
- 写真撮影方向
- 地下壕想定

滑走路センターライン

写真1 B1-17からB1-18方向水平



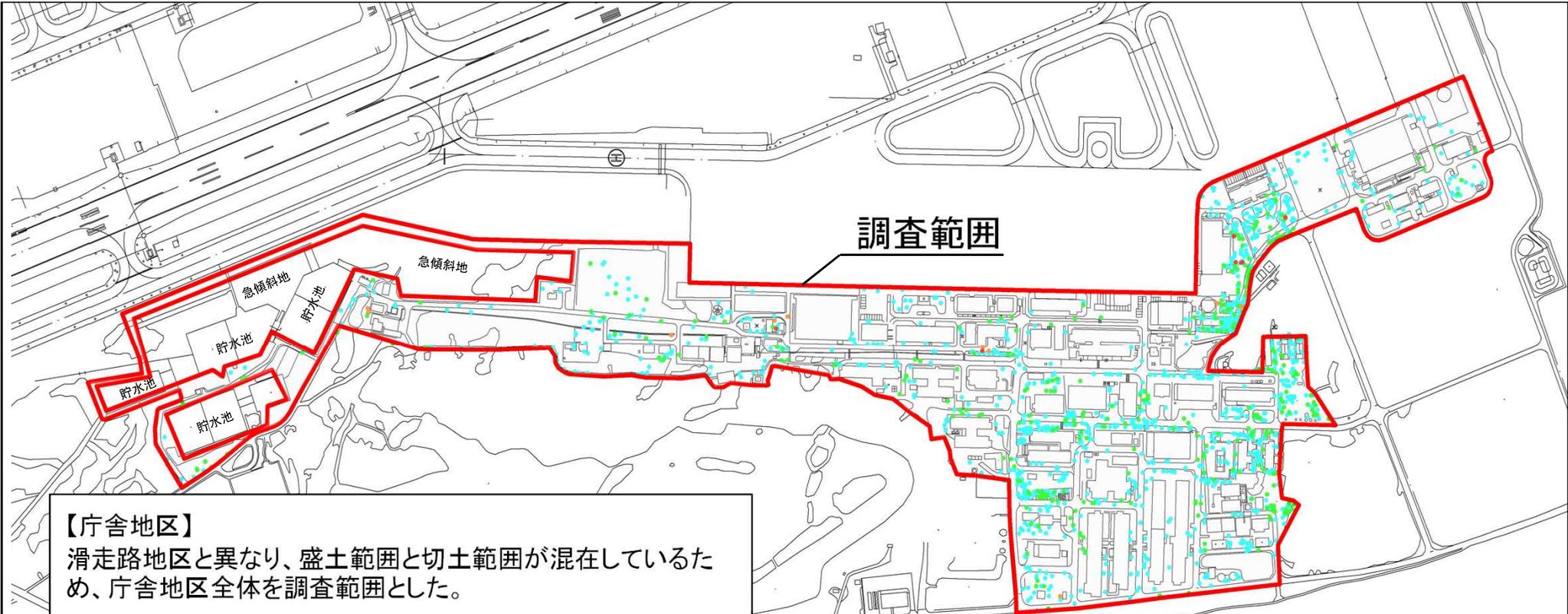
写真2 B1-18からB1-19方向上向き



写真3 B1-19空洞状況深度2.9m



1-3. 平成24・25年度に実施した高性能地中探査レーダ(御遺骨)の調査結果について【庁舎地区】



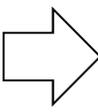
【庁舎地区】

滑走路地区と異なり、盛土範囲と切土範囲が混在しているため、庁舎地区全体を調査範囲とした。

ただし、建物下及びその周囲については、建物基礎の工事段階で、基礎を固い地盤まで掘り下げて確認していることから対象外とした。そのため、道路下や建物間の空地の調査を実施。



高性能地中探査レーダにおいては、直径3cmの円柱状のもの(大腿骨を想定)以上のものを探知した。(御遺骨と石などの判別不可。)



反応箇所数
1,559

凡 例	
● (Blue)	: 深度0m~1m 1,207箇所
● (Green)	: 深度1m~2m 334箇所
● (Yellow)	: 深度2m~3m 11箇所
● (Red)	: 深度3m~4m 7箇所

1-4. 庁舎地区の掘削・遺骨収容

①反応箇所の掘削範囲を特定し、重機により掘削を行う。

②レーダ反応深度まで掘削し、反応対象物の確認を行う。

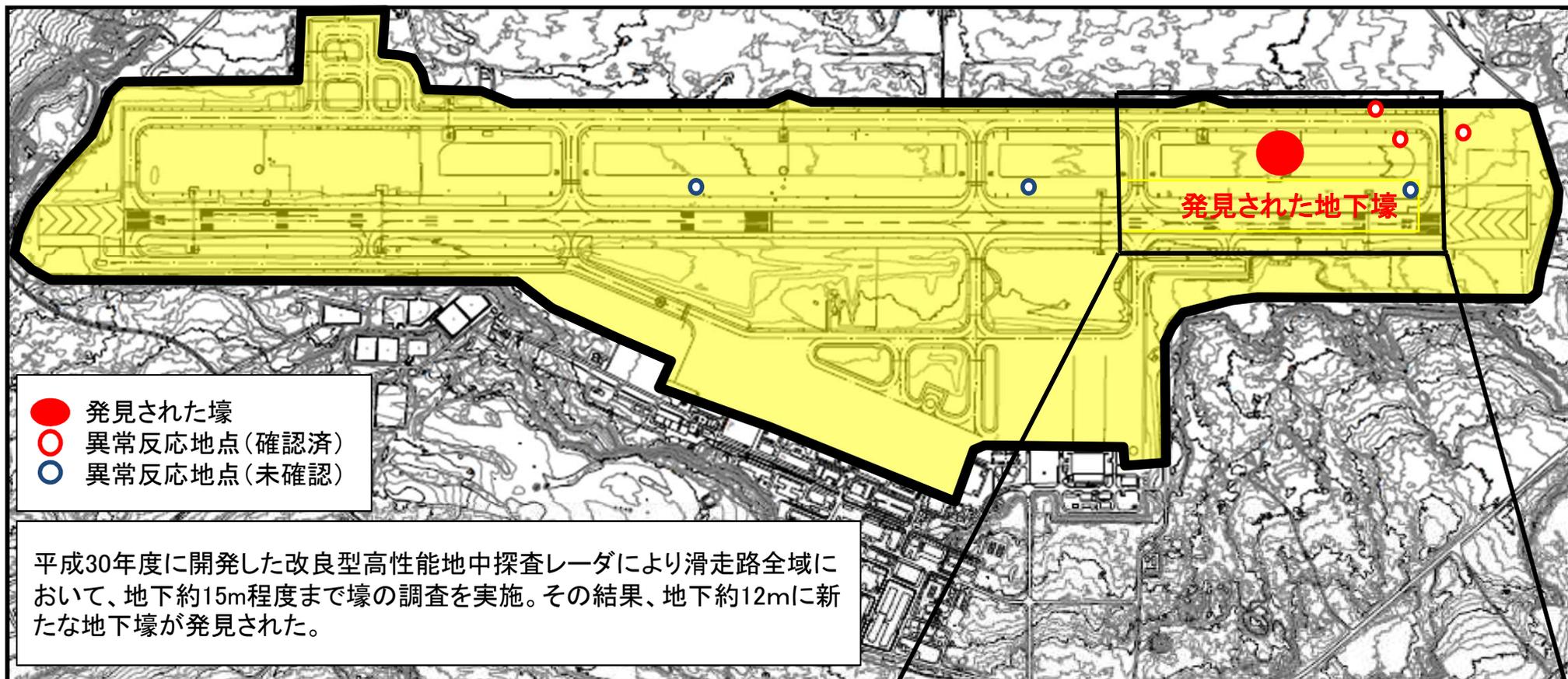
③反応箇所がコンクリートなどの舗装箇所の場合は、既設舗装版を撤去し、確認後、舗装復旧を行う。



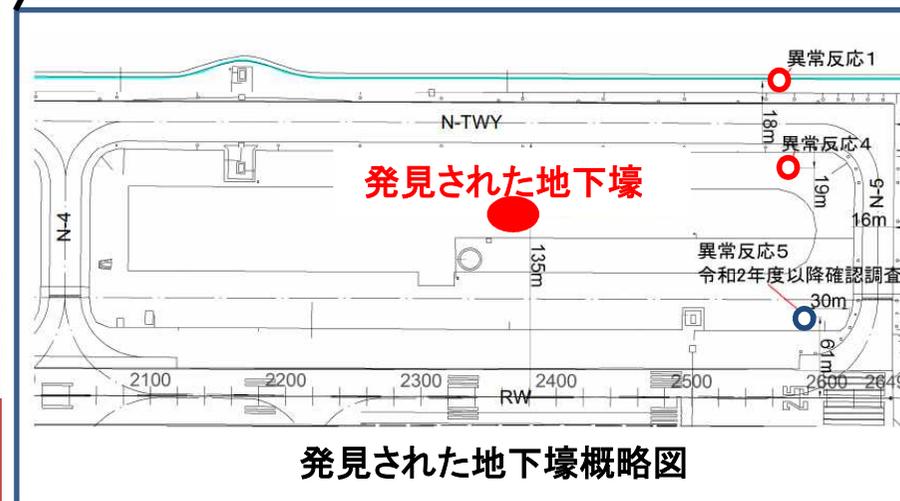
1-5. 閉塞先地下壕ボーリング調査の結果



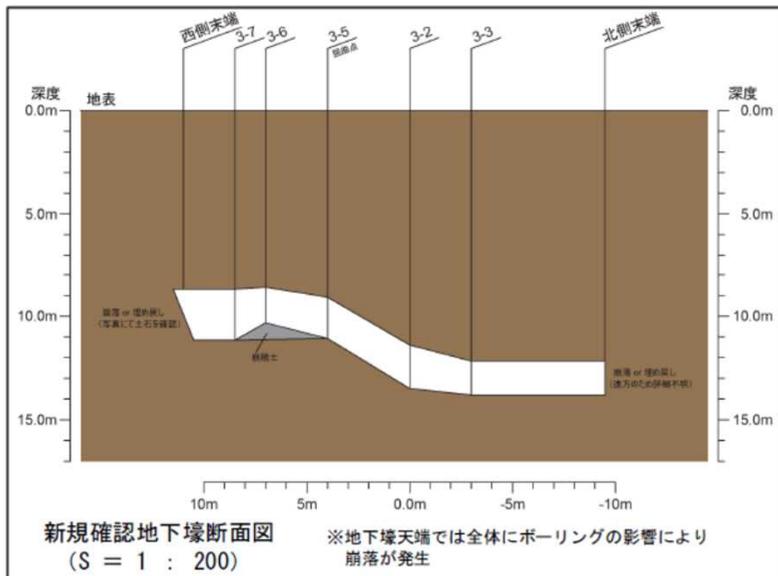
1-6. 令和元年度に実施した改良型高性能地中探査レーダの調査結果



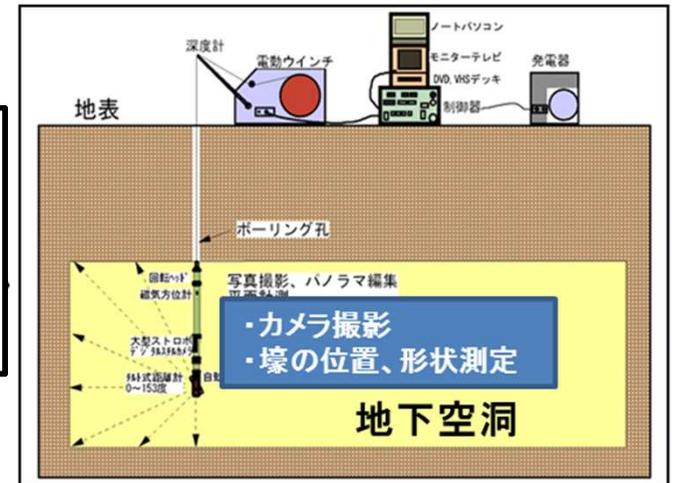
改良型高性能
地中探査レーダ



1-7. 発見された地下壕の状況①



観測孔ボーリング
 空洞カメラ観測
 ・内部状況撮影
 ・形状測量



↑(北)北側平行誘導路方向

←(西) (東)→

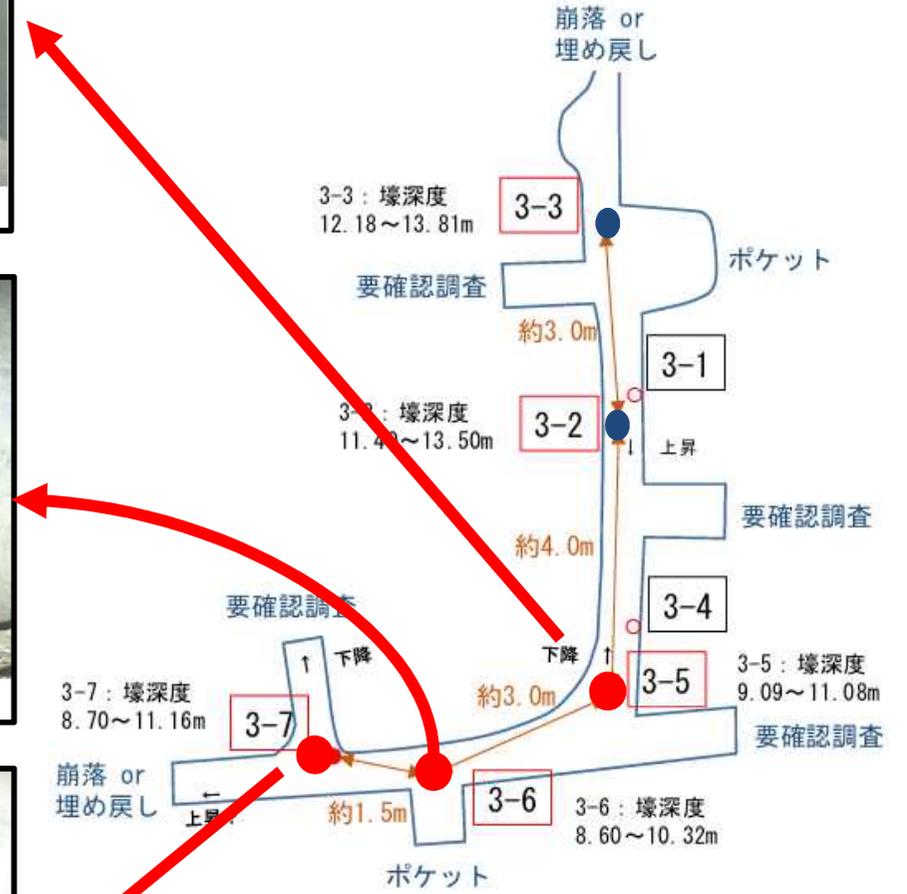


↓(南)主滑走路方向

1-7. 発見された地下壕の状況②

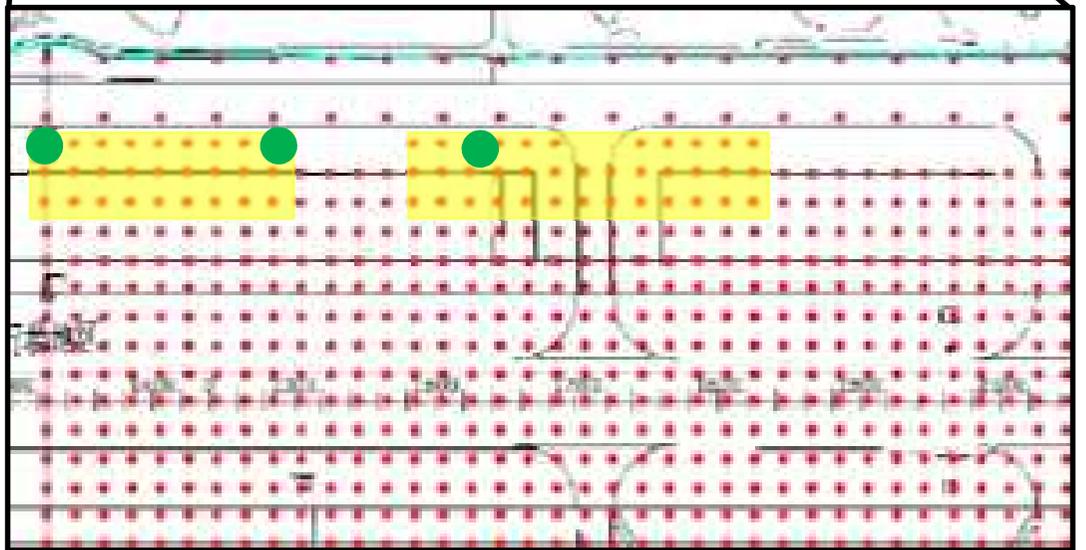


↑(北)北側平行誘導路方向



↓(南)主滑走路方向

1-8. 面的ボーリング調査の結果



ボーリング調査の様子

2-1. 外周道路外側の面的調査・遺骨収容

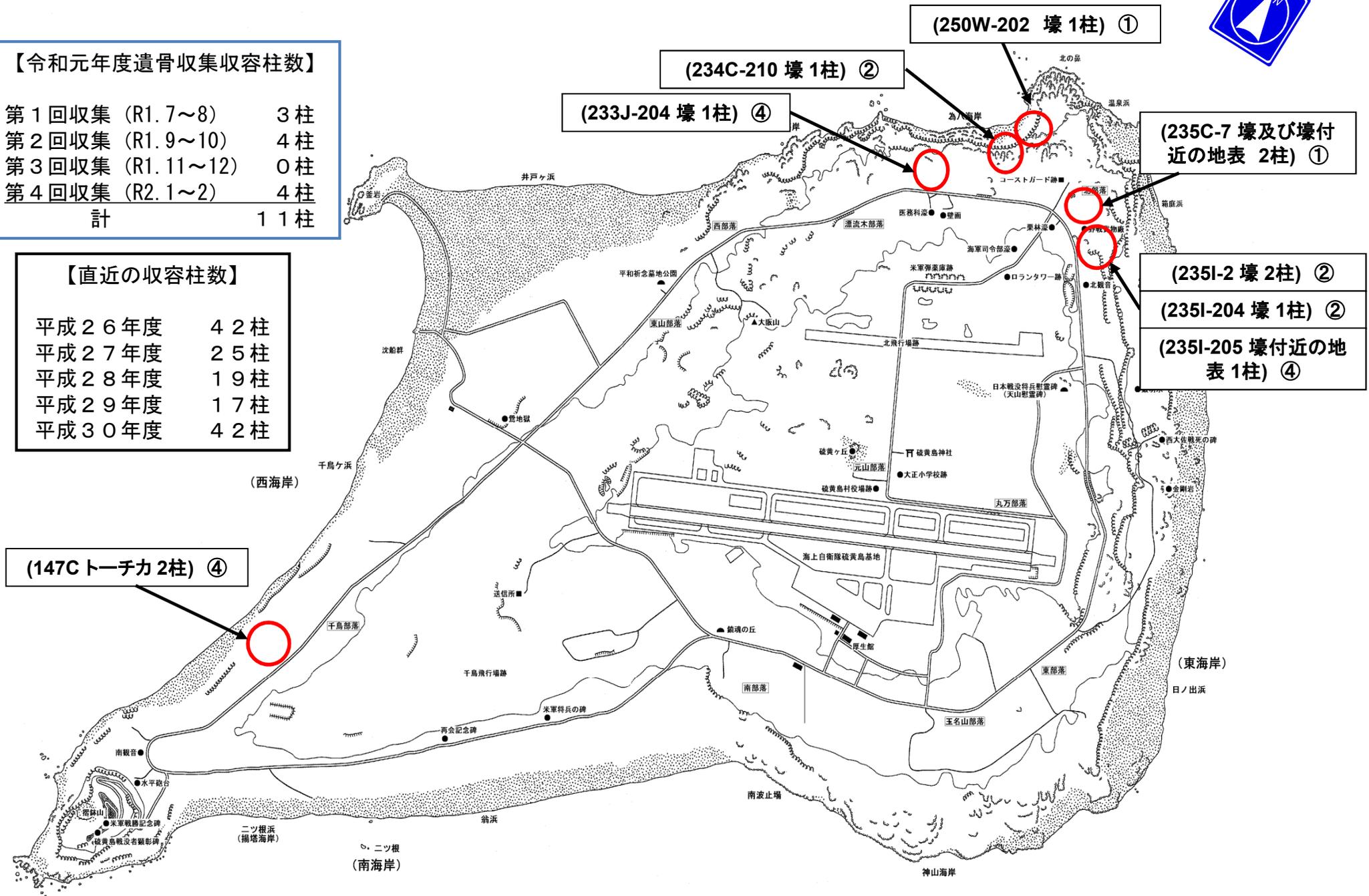


【令和元年度遺骨収集収容柱数】

第1回収集 (R1.7~8)	3柱
第2回収集 (R1.9~10)	4柱
第3回収集 (R1.11~12)	0柱
第4回収集 (R2.1~2)	4柱
計	11柱

【直近の収容柱数】

平成26年度	42柱
平成27年度	25柱
平成28年度	19柱
平成29年度	17柱
平成30年度	42柱



2-2. 外周道路外側の面的調査・遺骨収容

面的調査の結果、
発見された壕等
において遺骨収
容を実施し、そ
の結果、11柱の
御遺骨を収容し
た。

